

視聴票（6）あなたはどんな町であれば住み続けたいか？①②

第11回のまとめ（約400字）

「あなたはどのような町に住みたいか？身近な地域から考える」

第11回では、「あなたは今の町が好きか？」「卒業後も住み続けたいか？」という問い合わせから、自分と地域との関係を見つめ直す探究が扱われていた。地球規模や日本全体ではなく、「自分が実際に暮らしている町」に焦点を当てることで、これまで当たり前だと思っていた景色や仕組みが、違って見えてくる。番組の高校生は、まず自分の町の「好きなところ」「不便だと思うところ」を地図やメモに書き出し、そこから「子どもが安心して遊べる公園が少ない」「高校生が立ち寄れる居場所が少ない」など、具体的なテーマを見つけていく。次に、市役所の担当課や商店街の人、地域で活動している団体などを調べ、町を支える人たちがどんな思いで動いているのかをインタビューする。地図・パンフレット・統計データなど複数の資料を使いながら、自分の町の歴史や産業、人口の変化なども知っていく過程が描かれ、「自分の暮らしは、多くの人と仕組みに支えられている」という実感が深まっていった。

課題設定シート 回答例

例1

- わたしの課題：わたしは今住んでいる町の中高生のために、放課後に安心して過ごせる居場所があるかを知りたい。
- 何を：中高生が利用できる施設（図書館・公民館・青少年センターなど）の数と内容。
- どのような方法で：市役所のホームページやパンフレットで調べ、実際に見学に行く。
- 考察・新たな課題：思ったより施設はあるが知られていなかったり行きづらかったりすることが分かった。
- 新たな課題：同年代の友だちにアンケートをとり、「行きたくない理由」や「こんな場所がほしい」という声を集めたい。

例2

- わたしの課題：わたしは高齢者のために、町にどんな見守りや交流の仕組みがあるのかを知りたい。
- 何を：地域包括支援センターやサロン活動の内容。
- どのような方法で：市役所の福祉課に電話で問い合わせ、紹介されたパンフレットを読む。
- 考察・新たな課題：一人暮らしの高齢者を支える仕組みがいくつかあることを知り、安心した。
- 新たな課題：高校生が参加できる交流イベントがあるかどうかを詳しく調べて、ボランティアとして関わる方法を考えたい。

例3

- わたしの課題：わたしは自分の町の歴史を知ることで、町への愛着を深めたい。
- 何を：町がいつごろから発展してきたのか、昔の産業や名所。
- どのような方法で：郷土資料館や図書館で地域史の本を借りて読む。
- 考察・新たな課題：昔は今とまったく違う産業が盛んだったことが分かり、町の見え方が変わった。
- 新たな課題：歴史に詳しい地元の人（お年寄りや商店街の人）にインタビューして、写真やエピソードも集めたい。

例4

- わたしの課題：わたしは通学路を使う人のために、危険な場所や困っていることがないかを調べたい。
- 何を：通学路で交通事故やヒヤリとした経験があった場所。
- どのような方法で：クラスメイトに聞き取り調査を行い、地図上に印をつけてまとめる。
- 考察・新たな課題：横断歩道が消えかけている場所や、街灯が少ない場所があると分かった。
- 新たな課題：出来上がった地図を持って、市役所の道路管理担当に相談し、改善してもらえる可能性を探りたい。

例5

- わたしの課題：わたしは地元の商店街のために、若者が足を運びたくなる工夫があるかを知りたい。
- 何を：シャッターが閉まっている店の数と、最近新しくできた店の特徴。
- どのような方法で：実際に商店街を歩いて写真を撮り、店主に取材できるところは話を聞く。
- 考察・新たな課題：閉まっている店もあるが、新しいカフェや雑貨屋が少しずつ増えていることが分かった。
- 新たな課題：高校生の自分たちが利用したくなる企画（学生割引やイベント）について、商店街の人と一緒に考えたい。

例6

- わたしの課題：わたしは自然が好きな人のために、町の中で気軽に行ける「自然スポット」がどれくらいあるのか知りたい。
- 何を：公園・河川敷・緑地などの場所と特徴。
- どのような方法で：市の公園マップを調べ、実際に数か所を歩いてみる。
- 考察・新たな課題：意外と近くに知らない公園があり、四季によって表情が変わることが分かった。
- 新たな課題：自然スポットマップを自分なりに作り写真とコメント付きでSNSや学校の掲示で紹介したい。

例7

- わたしの課題：わたしは子どもたちのために、放課後に安全に遊べる場所やルールがどうなっているか知りたい。
- 何を：児童館や公園の利用ルール、見守り活動の有無。
- どのような方法で：児童館の職員や町内会長さんにインタビューする。
- 考察・新たな課題：子どもを見守る取り組みはあるが、人手不足で十分とは言えないと分かった。
- 新たな課題：高校生でも参加しやすい見守りボランティアや、イベント手伝いの機会を探したい。

例8

- わたしの課題：わたしは進学や就職で都会に出る若者のために、地元に戻って働く仕事がどれくらいあるのか知りたい。
- 何を：地元企業の業種や、若者のUターン就職支援策。
- どのような方法で：・ハローワーク・市役所の産業振興課のサイトを調べる。
- 考察・新たな課題：小さな会社が多いが、製造業や福祉など、地元に根ざした仕事があると分かった。
- 新たな課題：実際に地元企業で働く若手社員に話を聞き、「地元で働くメリット・課題」をまとめたい。

例9

- わたしの課題：わたしは観光客のために、町の魅力が分かりやすく伝わる案内があるかを調べたい。
- 何を：駅や観光案内所に置かれているパンフレットやマップの種類。

- ・どのような方法で：休日に駅周辺を歩き、パンフレットを収集して内容を比較する。
- ・考察・新たな課題：情報が多すぎたり、逆に若者向けの情報が少なかったりすることが分かった。
- ・新たな課題：高校生目線で「推しスポット」をまとめた、シンプルな1枚マップを作ることを考えたい。

例1 0

- ・わたしの課題：わたしは自分自身のために、「将来この町に住み続けたいか」を考える材料がほしい。
- ・何を：町の人口推移や、今後のまちづくり計画。
- ・どのような方法で：市の統計資料や総合計画の概要版を読んで要点をまとめる。
- ・考察・新たな課題：少子高齢化など厳しい現実もあるが、新しい取り組みも始まっていることが分かった。
- ・新たな課題：自分が「こんな町になってほしい」と思う未来像を描き、それに向けて今からできる行動を考えたい。

第12回のまとめ（約400字）

「あなたはどのような町に住みたいか？行動・提案につなげる探究」

第12回では、第11回で見つけた「自分の町のテーマ」をもとに、具体的な行動や提案につなげていくプロセスが取り上げられていた。番組の高校生たちは、まず調べた内容を整理し、「現状」「問題点」「理想の姿」を簡単な図やスライドにまとめる。それをもとに、市役所の職員や地域の大人にプレゼンしたり、クラスの中で発表し合ったりすることで、自分の考えを言葉にする練習をしていく。また、「自分一人で町を変えることはできなくても、身近な行動や小さなアイデアから変化は始まる」ということを意識し、ポスターづくりやマップづくり、イベントの企画など、実際に形にできる一歩を考えていく姿も描かれていた。探究の締めくくりとして、「この町のどんなところが好きか」「将来この町にどう関わっていきたいか」をそれぞれが振り返ることで、自分を育ってくれた地域への感謝と、これから生き方へのヒントが見えてくる回だった。

課題設定シート 回答例

例1

- ・わたしの課題：わたしは中高生の居場所を増やすために既存の施設をもっと使ってもらう方法を考えたい。
- ・何を：青少年センターや公民館の利用ルールと、利用者が少ない理由。
- ・どのような方法で：職員にインタビューし、同年代にアンケートをとって意見を集める。
- ・考察・新たな課題：「行きづらい」「何をしていいか分からない」という声が多いと分かった。
- ・新たな課題：高校生が企画するイベントやボードゲーム会など、気軽に参加できるアイデアを提案し、試験的に開催してもらえないか相談したい。

例2

- ・わたしの課題：わたしは高齢者と若者の交流の場を増やすために、世代を超えたイベントを企画したい。
- ・何を：地域で行われている世代交流イベントの実例。
- ・どのような方法で：社会福祉協議会や自治会の広報紙を調べ、担当者に話を聞く。
- ・考察・新たな課題：既にいくつかの交流会はあるが、高校生の参加が少ないと分かった。
- ・新たな課題：学校と地域が連携して、部活動の発表やゲームを通じた交流会を新しく提案してみたい。

例3

- ・わたしの課題：わたしは町の歴史を若い世代にも伝えるために、簡単な「歴史散歩コース」を作りたい。

- 何を：・歴史的な建物や史跡の位置と、そこにまつわるストーリー。
- どのような方法で：郷土資料館で調べ、地元の人に当時の様子をインタビューする。
- 考察・新たな課題：教科書には載らない「生活の記憶」がたくさんあることに気づいた。
- 新たな課題：集めた情報を A4一枚のマップにまとめ、学校や図書館で配布できないか相談したい。

例4

- わたしの課題：わたしは通学路の安全を高めるために、危険箇所マップを作り、行政に提案したい。
- 何を：生徒が危険だと感じているポイント（見通しの悪い交差点・歩道のない道など）。
- どのような方法で：クラスで地図を配って印をつけてもらい、写真を撮って具体例を集める。
- 考察・新たな課題：同じ場所を多くの人が危険だと感じていることが分かった。
- 新たな課題：生徒会と協力して地図を整理し、市役所の担当課に改善を要望する文章を作りたい。

例5

- わたしの課題：わたしは商店街を元気にするために、高校生目線の「推し商店街マップ」を作りたい。
- 何を：若者でも入りやすい店・面白い店主さんがいる店・写真映えするスポット。
- どのような方法で：友だちと商店街を歩き、気になる店に入って取材する。
- 考察・新たな課題：話してみると、若いお客さんに来てほしいと考えている店主さんが多いと分かった。
- 新たな課題：完成したマップを学校の文化祭や SNS で配布し、「若者が商店街に行くきっかけ」を作りたい。

例6

- わたしの課題：わたしは町の自然を守るために、小さな清掃活動を継続する方法を考えたい。
- 何を：川や公園のごみの状態・既に行われている清掃活動。
- どのような方法で：現地を何度か訪れて写真を撮り、市役所やボランティアセンターで情報を集める。
- 考察・新たな課題：一時的にきれいにしても、すぐ元に戻ってしまうこともあると分かった。
- 新たな課題：「月に一度のミニ清掃」をグループ単位で実施し、活動記録を掲示板に貼ることで、参加者を増やしたい。

例7

- わたしの課題：わたしは観光客と住民の両のためにマナーと楽しみ方を伝える簡単なガイドを作りたい。
- 何を：観光地で問題になっているマナー違反の事例と、住民の声。
- どのような方法で：新聞記事や自治体の注意喚起文を調べ、地域の人にインタビューする。
- 考察・新たな課題：観光客が悪気なく迷惑をかけていることが多いと分かった。
- 新たな課題：「やってほしくないこと」だけでなく、「こうしてくれたらうれしい」というポジティブなメッセージのガイドを作りたい。

例8

- わたしの課題：わたしは将来この町で働くかもしれない自分のために、地元企業の魅力を高校生向けに伝える方法を考えたい。
- 何を：高校生が知らない地元企業の仕事や、働いている人の思い。
- どのような方法で：企業訪問やオンラインインタビューを行い、仕事内容とやりがいを聞く。
- 考察・新たな課題：有名ではないけれど、社会を支える大事な仕事をしている会社が多いと分かった。
- 新たな課題：インタビュー内容をスライドやポスターにまとめて、進路ガイダンスの場で紹介してもらえない

か先生に相談したい。

例9

- わたしの課題：わたしは文化や芸術を大事にする町にしたいので、若者が参加できる文化イベントを増やしたい。
- 何を：現在行われている音楽・映画・アートのイベントと、参加条件。
- どのような方法で：市の文化課やホールの催し物案内を調べ、担当者にインタビューする。
- 考察・新たな課題：鑑賞型のイベントは多いが高校生が「出る側」として参加できる場は少ないと分かった。
- 新たな課題：高校生バンドや演劇部が出演できる小さなフェスやステージ企画を提案し、実現に向けて仲間を集めたい。

例10

- わたしの課題：わたしは自分を育ってくれた町に恩返しするために、将来どのような形で関わり続けるかを考えたい。
- 何を：地元出身で、今も地域に関わりながら仕事をしている大人たちの生き方。
- どのような方法で：学校のOBや、先生に紹介してもらった社会人にオンライン・対面で話を聞く。
- 考察・新たな課題：「一度外に出てから戻る人」「ずっと地元にいる人」など、いろいろな関わり方があると分かった。
- 新たな課題：インタビューを通して感じたことをレポートにまとめ、「自分はどのような距離感で地域と関わりたいか」を言葉にしてみたい。